

ポンド、供給制約が上値を圧迫

- ◆ポンド、早期利上げ期待が支えとなるも、供給制約の深刻化が上値を圧迫
- ◆ポンド、当面は経済データや MPC メンバーの発言で神経質な動きか
- ◆加ドル、原油相場の動きに注目

予想レンジ

ポンド円 149.00-153.50 円

加ドル円 86.50-90.50 円

10月11日週の展望

ポンドはイングランド銀行 (BOE) の早期利上げに対する思惑が下支えとなる一方で、欧州連合 (EU) 離脱による、コロナ禍の影響で供給制約が深刻化していることが上値圧迫要因となる。世界的に半導体不足の深刻な状況が続いている中、英国内ではトラック運転手や食品加工業者の労働力不足が深刻化しており、飲食店やガソリンスタンドの一時的な休業が拡大している。短期的には物価が一段と上昇し、景気回復の鈍化が懸念される。

市場では BOE が年内にも利上げに踏み切るとの思惑が浮上するなど、金融正常化期待が高まっている。BOE は「金融政策正常化の第一歩は、利上げによって行われるべき」との認識を示している。原油高なども背景に金融政策委員会 (MPC) メンバーの「インフレ高は一時的」との見方に修正を迫られる可能性がある。ただ、多くのメンバーは景気回復の持続性には慎重な見方を維持し、経済データの確認が必要との考えを示している。ポンドは、英経済指標や MPC メンバーの発言に神経質な動きとなりそうだ。来週は 8 月の GDP や 9 月の雇用データなどの発表が予定されている。

加ドルは原油相場の動きに注目。足もとで原油高が産油国通貨である加ドルの下支えとなっている。今週の NY 原油は有力産油国による大幅増産見送り決定を受けて約 7 年ぶりの高値まで上昇した。厳冬の原油消費急増、および米国の国境再開に伴う航空需要の増加などを背景に原油は上昇基調を維持する可能性が高い。今後の原油価格は頭打ちとの見方がある一方で、一部では世界的なエネルギー不足を背景に、2014 年以來の 1 バレル=100 ドルを上回る可能性も指摘されている。原油価格が一段と急騰すれば、世界的にインフレ圧力が加速し、景気の鈍化懸念が強まることから、リスクオフの動きが高まる可能性にも注意したい。

また、カナダ中銀 (BOC) の金融政策の正常化に向かう姿勢は引き続き加ドルのサポートとなる。BOC は、景気・物価見直しを見直す 27 日の会合で資産買入額のさらなる減額に踏み切るとみられている。マックレム BOC 総裁は 9 月の講演で「景気回復が進むにつれ、量的緩和による刺激策の継続が必要でなくなる時期が近付いている」との見解を示している。一方、加ドルの上値圧迫要因としては、米長期金利の上昇に伴うドル高や株安などリスクオフの動きが挙げられる。

10月4日週の回顧

ポンドは下げ渋るも、米長期金利の上昇傾向が続いていることや、中国恒大リスクへの警戒感が残されていることなどが重しとなり、対ドル・対円で買い戻しは限られた。ポンドドルは 1.36 ドル半ば、ポンド円は 152 円前半で上値が抑えられた。9 月英サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値は 55.4 と速報値から上方修正された一方で、9 月建設業 PMI は予想比下振れの 52.6 となった。加ドルは原油高を支えに底堅い動きとなったドル/加ドルは 1.25 加ドル半ば、加ドル円は 89 円近辺まで加ドル高に振れた。8 月のカナダ貿易収支は 19.4 億加ドルの黒字と、市場予想の黒字額を大幅に上回った。(了)